



桜山小だより

【学校教育目標】

- ・(知) 夢を持ち楽しく学ぶ子
- ・(徳) 心豊かに思いやる子
- ・(体) 健康でたくましい子

～ともに夢を育む感動体験を通して～

5月号

令和8年5月25日発行

校長 ニロ 法子



特別の教科「道徳」とその特色

現行の学習指導要領では、生きる力を基盤に、対話的な学びを大切に、一人一人が幸せ感(Well-Being)を求めるといった目標があります。生きる力の育成は、しっかりとした学びや豊かな心を養う道徳教育の充実、健康安全を大切に作る健やかな体づくりです。そして、対話的な学びは、自分の考えを仲間関係の中で磨いてよりよい考えにしていくことです。このことは、子どもの資質・能力として、主体的・対話的な学びとして道徳や各教科等で学んでいくものです。そして、心身を自ら鍛え生涯充実して生きていくことは、幸せ感を求めるためであり、生涯100歳の人生設計のためである、ということもできます。

特に道徳の学習では、「なぜ、このように考えるのか」と題材の主人公について自分のこととして真剣に考え、仲間と議論しながら「なるほど異なる意見も大切だ」と多面的・多角的に自分の考えを広げ、「自分ならこう実行したい」と実生活の問題を発見し粘り強く自ら解決することが大切です。さらには多様な体験を生かしながら学びを深める授業もあります。

一方で一時期Society(=社会)という言葉が注目されました。福沢諭吉は明治初期に「人間交際」と訳し、社会と人との関係性の大切さを語っています。人間は狩猟社会(Society1.0)、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、情報社会(Society4.0)と切り拓いてきました。日本が目指すべき姿として現在はSociety5.0(超スマート社会:仮想空間と現実空間の高度な融合・社会のあらゆるところにデジタル技術→人間中心の社会)という、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心社会の実現が日々進んでいるところです。現在学校では、人間尊重の精神を基盤に、道徳科が推奨する「考え、議論する学習」を大切に、未来社会の創造を見据え、社会の良き創り手、よき使い手を育てる学習を積極的に展開しているところです。

今年度の1年生への給食ボランティアの活動も、5月いっぱい終了します。

「えぶろん せんせい」の皆様より感想を頂戴しました。来年度も同様に計画いたしますので、来年度はさらに多くの皆様のお力添えをいただけますと幸いです。

○4月中旬から約一か月の中の何日か、1年生の給食時のお手伝いをさせていただき、子どもたちの著しい成長を感じる時間でした。途中から「見守る」時間となり、担当の先生方と一緒に子どもたちの一生懸命に取り組む姿から、大人である私たちが元気と笑顔をもらっています。

○昨年に続いての参加になりますが、子どもの吸収の速さには驚くばかりです。5月の連休明けでは少し停滞してしまうのかと思いましたが、そんなことはなく、お手伝いに来ているのにただただ見ているだけでした。子どもたちは褒めてあげると喜びますね。そして上手になります。自分の生活の中では子どもに接する機会がありませんので良い経験になりました。ありがとうございました。